

栃木市市民会議 全体会 会議要旨

日 時： 令和7年2月4日（火） 午後7時～8時20分
会 場： 栃木市役所 正庁
出席者数： 委員29名、事務局7名

- 1 開会
- 2 あいさつ

会 長：大変寒く足元の暗い中お集まりいただき感謝する。前回9月の全体会では、総合計画部会から、令和5年度の市の施策に対する評価について、部会員の方々が検討した成果を報告していただいた。今回は、自治基本条例部会から、この2年間作業したことについての中間報告をさせていただく。自治基本条例第45条に、いわば栃木市の憲法、市の条例を統括していく立場にある自治基本条例を5年以内に見直していくと規定されており、自治基本条例部会はその根拠に基づいて活動しているが、その一環としての中間報告になる。内容については、数年前に成人年齢が20歳から18歳に引き下げられ、選挙権なども18歳から持つことができるようになったことに関連して、自治基本条例の中の「青少年や子ども」に関して検討を行った。後ほどご報告があると思うが、お気づきの点があれば積極的にご意見をいただければと思う。どうぞよろしくお願ひしたい。

- 3 議事
議題 自治基本条例部会中間報告書について
委員より報告

会 長：ただいまの中間報告について、ご意見・ご質問等あればぜひお願ひしたい。また、この取組は知っている等の情報提供があれば、積極的にご発言いただきたい。

質疑応答

委 員：子ども達が地域に愛着をもつことが一番大切で、そのためには、協力してコミュニティを作り上げるという姿勢が必要だと思う。

会 長：正論だと思う。国に任せすぎになると地域が主体性がなくなっていく可能性がある。それぞれの立場で地域に関心を持ち、1つのコミュニティとしてみんなで取り組まないといけないことがたくさんあるので、やるべきことはや

っていくというスタンスが重要である。

委員：大宮地区では、公民館事業としてサマーフェス、公民館祭り、クリスマス会を開催し、小学生とその親や祖父母が集まり賑わった。初めての試みだったが、今後もつなげていきたいと思う。

会長：子どもが主体となって参加する行事があるところでは、子どもが就学や就職で地域から出て行っても、戻ってくる。成人になるまでの間に地域の大人といかに関わったかで、地域への愛着が強く残るかが変わってくる。

委員：市内の小学校1年生から6年生までの子どもを対象に、子ども観光大使に認定する取組があり、この10年間で380名が子ども観光大使になった。また、太平山のあじさい祭りの時に、中学生が土日だけボランティアとして観光客にパンフレットを配布したり、名物料理などの案内をしており、20年ぐらい続いている。秋まつりでも、市内の中学生がごみ拾いをするので祭りに参加している。小さい頃から地元のことをわかっていると自信がつく。小・中・高生みんなが自分の住んでいるところに誇りをもって活動している。

会長：小学校1年生から4・5年生までの時期が記憶力が一番高まる時期であり、見たり聞いたりしたことが体に染みついてずっと覚えていることは、経験があると思う。そういう感度がいい時期に、子どもたちに地域の情報を与えていく活動が、その後の子どもたち一人一人の10年後、20年後に大きな意味を持ってくると思う。貴重な活動である。

委員：資料1の7ページに「今後の学校再編によって学校数も減少が見込まれ、行政や地域と学校との繋がりが薄くなることが懸念される。」とあるが、「懸念される」よりも「新しい地域との関わりを期待する」というような書き方のほうが良いのではないか。

会長：ご指摘があった箇所はどちらかといえばネガティブな表現だが、統合して新たに1つの中学校として再出発し新しい地域を作り上げていくという姿勢が重要だというご意見だと思う。表現を検討したい。

委員：皆様のご意見を聞いて、知らない事業がたくさんあることを知ったので、前向きにいいアイデアを取り込んでいきたい。例えば夏休みを利用した交流の場に中高生にボランティアとして来ていただき、学習のサポートをお願いしたりすることもよさそうだった。

委員：子どもたちの積極的な活動を学校の単位で認めてあげられれば、参加した子

どもの士気が上がるのでないか。

副会長：制度化すると、単位や進学のためにボランティアをする子どもが出てくることが懸念される。先ほど栃木市が好きで誇りを持って子どもたちは活動しているとあったが、大人が見守っていくこと、地域の大人が栃木市に誇りをもって好きになり、子どもたちに何ができるかを考えることが大切。最近の子たちはゲームばかりしてとネガティブな考えではなく、ゲームに集中できる力があるとポジティブに考えることもできる。子ども達が栃木市を好きになるには皆さんの力が必要だと思う。

会長：校外活動と成績とを結びつけると色々な弊害も生まれるかもしれないので、今の状態で自主的にボランティアに取り組む子が増えると良いと思う。中間報告については、ご指摘のあった点について部会長と事務局と相談して表現の一部を修正の上、決定するという事によろしいか。(一同了承)

4 その他

事務局より連絡

栃木市市民会議委員（公募委員）の募集について【周知】

質疑応答

なし

会長・副会長のコメント

副会長：今日の全体会に参加し、大変感銘を受けた。皆さん栃木市が好きなんだと思った。そういう大人が身近にいるのは子どもにとっても良いことで、皆さんのことを誇りに思っていると思う。地域というのは地域がそこにあって人々が集まるのではなく、人々が集まって地域を作っていく。人々、特に子ども達が成長するには3つの間「時間」「空間」「仲間」が必要だと言われているが、私はそこに「居間」「地域の間」の2つも必要だと思う。家庭の在り方や、地域の在り方が重要で、地域住民が主導していくべき。その中でも栃木市は突出していると思うので、栃木市を魅力ある地域にしていくために、引き続き皆さんのお力を貸してほしい。

副会長：総合計画部会と自治基本条例部会に参加したが、どちらも非常に勉強になった。資料の1ページに「社会情勢に対応して」とあるが、政治哲学や国際政治の先生が、今一番大事なことはコミュニティの中で人々が会話をすることだと言っている。そういった意味では、例えば自治基本条例部会においてヒアリングを行う際に、担当職員が来て、市の事業や取組を熱く語ってくれた。そ

れはとても貴重で、コミュニティの中で皆さんが知恵を出して、自分の立ち位置や軸をしっかり持つということが一番重要になってきている。地方自治のこういう試みが、これからますます問われてくると思う。皆さんからいろいろな意見をいただいた。本当に感謝する。

会 長：2年間本当にお世話になった。本日も委員の皆さんからご意見、ご質問をいただき感謝する。部会員の皆さんが自分の言葉で報告されていたことが印象に残ったし、ご自分の体験に基づいて発言されているので、委員の皆さんはどんどん成長していると感じる。

最後に情報提供として、今日の中間報告の内容に関連するが、「栃木市こども計画」のパブリックコメントが実施されている。栃木市の子どもに関する施策についての計画が書かれているので、ぜひご覧いただいたうえで、可能であれば意見を提出していただければと思う。